

臨床透析 ● 総目次
第 40 巻
Vol.40 No.1~No.13
(2024 年 1 月号~12 月号)

● 特 集

《特集一覧》

- 1 月号 骨合併症（骨折、アミロイド症を含む）
2 月号 血液透析患者の血圧を再考する
3 月号 “透析看護” 研究，論文発表に繋げよう！
4 月号 急性腎障害の最新トレンド
5 月号 透析患者の心不全パデミックに立ち向かう
6 月号 学びなおし腹膜透析
6 月増刊号 腎臓リハビリテーション—理論と実際
- 7 月号 チームで挑む透析患者のフットケア
8 月号 高齢者施設で生活する透析患者の実態
9 月号 透析医療を巡る臨床倫理の側面
10 月号 透析室スタッフのコミュニケーション術
11 月号 いざ実践！ 透析患者の栄養管理
12 月号 透析室でかかわるアフェレシス

■ 1 月号 (vol.40 no.1) 骨合併症（骨折，アミロイド症を含む）

1. 透析患者の骨合併症
副田 圭祐・駒場 大峰 7~15
2. 骨合併症の評価法
(1) 骨代謝マーカー
山田 真介 17~23
(2) 透析関連骨合併症の画像診断
中川 洋佑 24~31
(3) 骨生検
風間順一郎 32~38
3. 骨合併症の薬物治療
(1) リン吸着薬
徳本 正憲 39~45
(2) ビタミン D 受容体作動薬
溝渕 正英 46~50
(3) カルシウム受容体作動薬
谷口 正智 51~56
4. 副甲状腺インターベンション
角田 隆俊 57~64
5. 透析患者の骨粗鬆症に対する薬物治療
佐藤 宗彦・辻本 吉広 65~72
6. 透析患者の骨折の危険因子と予後
後藤 俊介 77~80
7. 透析患者の骨折の外科的治療
喜多島 出 81~88
8. 透析アミロイド骨関節症
(1) 病態と診断
山本 卓 89~94

- (2) 予防と治療
田中 彩之・星野 純一 95~98
(3) 外科的治療
森田 弘之 99~105

[コラム]

- ・透析患者の骨と血管石灰化
山田 俊輔・荒瀬 北斗
松枝 修明 73~76

■ 2 月号 (vol.40 no.2) 血液透析患者の血圧を再考する

- 透析患者によく用いられる降圧薬
櫻井 悠樹・渋谷 祐子 124
1. 血液透析患者の血圧値と生命予後・臓器合併症
田村 功一・安藤 大作
押川 仁 127~133
2. 血液透析患者の高血圧ガイドライン—日本と海外
平和 伸仁 135~141
3. 血圧測定法—ポジション/測定部位/血圧計
岡田 宜孝・坂口 美佳
有馬 秀二 142~148
4. 血液透析中の血圧と脈拍管理—脈圧/脈拍
河野 圭志 149~154
5. 透析患者の至適血圧—腹膜透析も含む
脇野 修・長谷川一宏
田蒔 昌憲・柴田 恵理 155~163
6. 高血圧の原因精査—DW/DW 以外の

要因	藤井 直彦	164～170	(3) 看護実践報告・研究の抄録の書き方	西山 陽子	280～286
7. 降圧薬の選択と内服タイミング			(4) 看護実践発表の実際		
— 新旧降圧薬			① 発表までのプロセス		
神吉 智子・榎原 孝成			加来 佳恵・齋藤 幸子		
向山 政志	171～177		北野 良子	287～291	
8. 透析低血圧の原因— どんな指標, 検査が有用か			(5) 看護実践発表の実際		
熊谷 裕生・池田 直史			② 発表での工夫		
野平 由香・元 志宏			田中 順也	292～298	
野邊香奈子・岩井 孝憲					
上久保佑太	178～186		ステップ3		
9. 低血圧対処法— 透析中/非透析時			学術雑誌へ論文を投稿する		
中井健太郎	187～193		(1) 論文投稿の準備— 国内外の学術雑誌への掲載を目指して	桐明あゆみ	299～304
10. 血圧の日内変動データ— どのようにデータを利用するか			(2) 論文投稿の実際— 多くの看護職と看護ケアの実際を共有するために	高井 奈美	305～310
常喜 信彦・田中 友里	194～197		[コラム]		
11. 血液透析患者の血圧と透析モダリティ— 透析液 Na 濃度/透析液温度			・透析現場で研究に取り組むコツ	齋藤 凡	311～313
山本 卓	198～203		・査読者はどこを見ているか	山中 晶子	314～316
12. 高血圧・低血圧透析患者の食事指導			・腎不全看護実践の中の暗黙知って何だろう?	江上 豊	317～319
(1) 塩分/水分/それ以外	玉浦 有紀	204～210			
(2) 季節/入浴/通院	竹澤 一憲	211～214			
[コラム]					
・レオカーナと血圧低下					
川上 貴久・要 伸也	215～217				
■ 3月号 (vol.40 no.3) “透析看護” 研究, 論文発表に繋げよう!					
はじめに					
看護実践を可視化するためのステップ					
下山 節子	239～241				
ステップ1					
看護実践を共有する					
(1) 看護実践を事例報告へ言語化する					
阿部 利恵	243～251				
(2) 事例検討会の実際— カンファレンス					
池田 綾・不動寺美紀	252～258				
(3) 事例発表会の実際— 認定看護師教育課程					
多久和善子・山口 紀子					
西村 美里	259～264				
ステップ2					
研究会・学会で看護実践を発表する— 発表に取り組むための準備とその実際					
(1) 看護実践報告・研究の計画書をつくる					
三村 洋美・田村 由衣					
川村 晴美・中澤 沙織	265～272				
(2) 看護実践報告・研究の倫理審査					
武田貴美子	273～279				
			■ 4月号 (vol.40 no.4) 急性腎障害の最新トレンド		
			1. 急性腎障害の歴史的変遷 (ARF から AKI, AKD) と診断	野入 英世	351～359
				小丸 陽平	361～366
			2. 急性腎障害診療における人工知能の活用		
			3. 急性腎障害の病態と神経— 免疫連関による新規治療アプローチの展望	梅根 隆介・井上 剛	367～374
			4. 急性腎障害の予防はあるのか?	安田日出夫	375～380
			5. 肝腎症候群の新たな展開	中村成よし・本間康一郎	381～387
			6. 急性腎障害から慢性腎臓病への移行	玉懸 直人・田中 哲洋	388～393
			7. がん化学療法における急性腎障害	石井 太祐	394～400
			8. 高齢者の急性腎障害	宮崎真理子	401～406
			9. 小児期における急性腎障害	幡谷 浩史	407～411
			10. 急性腎障害の予後を改善するために何が必要か	土井 研人	412～416
			11. 急性腎障害時に注意すべき薬物療法	平和 伸仁	417～421
			12. 急性腎障害に対する腎代替療法	山田 博之	422～427
			13. 急性腎障害における栄養管理		

	加藤 明彦	428～435
14. 急性腎障害における腹膜透析	浜崎 敬文	436～442
15. 急性腎障害患者に対する看護ケア	河合 佑亮	443～449

■ 5月号 (vol.40 no.5)	透析患者の心不全パンデミックに立ち向かう	
1. 透析患者における心不全の病態と疫学	池田 裕之・茅田 浩	463～468
2. 透析患者における心不全の評価法	常喜 信彦・田中 友里	469～475
3. バスキュラーアクセスによる循環動態への影響	橋本 幸始・上條 祐司	477～481
4. 心不全を合併する末期腎不全に対する血液浄化療法	松尾 実紀・吉原 史樹	482～489
5. 腎性貧血と鉄欠乏による循環動態への影響	石岡 広崇・田中 哲洋	490～495
6. 慢性心不全に対する薬物治療	佐藤 大・渋谷 祐子	496～504
7. 心房細動に対する薬物療法	松木 孝樹・田邊 康子 中川 直樹	505～511
8. 心房細動に対する経皮的左心耳閉鎖術 (WATCHMAN™)	原 英彦	512～516
9. 僧帽弁逆流に対する経皮的僧帽弁接合不全修復システム (MitraClip®)	青木 二郎	517～522
10. 大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁置留術 (TAVI)	竜崎 俊亘・林田健太郎	523～529
11. 透析患者の心不全に関するリハビリテーション	高橋 麻子・伊藤 修	530～535
12. 心不全に対する多職種チーム医療ー透析患者への対応も含めて	衣笠 良治	536～540
[コラム]		
・心不全を合併した腹膜透析患者に対する学会主導プロジェクトチーム	森 建文	541～544
・心不全療養指導士制度と透析医療	宮島 功	545～547
[栄養情報]		
・心不全を合併した透析患者における食事カリウム管理	市川 和子	548～552

■ 6月号 (vol.40 no.6) 学びなおし腹膜透析

はじめに		
腹膜透析を自分のものにするために	花房 規男	575～576
1. 腹膜透析と血液透析の同じ点・異なる点	中山 昌明	577～583
2. 導入期の診察まで	森石みさき	585～592
3. 腹膜透析に関する検査とその評価	竜崎 崇和	593～600
4. 腹膜透析の処方はどうするか	本多 佑・丹野 有道	601～608
5. 出口部のケアとカテーテル関連感染症	長嶋 愛・伊藤 恭彦	609～615
6. カテーテル管理とカテーテルトラブル	長沼 俊秀・武本 佳昭 浅井 利大・内田 潤次	616～621
7. 救急外来での腹膜透析患者対応	荒井 太一・酒井 謙	622～626
8. よりよい腹膜透析を維持するための栄養管理	野崎 梢	627～632
9. 併用療法の導入についてータイミングと対応	植田 敦志	633～639
10. 施設血液透析・在宅血液透析・腎移植への移行のタイミングと納得のいく移行方法	樋口千恵子	640～644
11. 腹膜透析患者のアドヒアランスを向上させるためにはどうすればよいか	志水さおり・今井 早良 長谷川友紀	645～651
12. 腹膜透析患者におけるエンドオブライフケア、PD ラストを成功させるために	平松 信・大脇 浩香 丸山 啓輔	653～658
[コラム]		
・被嚢性腹膜硬化症をどう予防し治療するか	濱田千江子	659～660
・体液過剰に対する高濃度ブドウ糖透析液	森 建文	661～663
・旅行の準備	濱田千江子	664～665
・腹膜透析における遠隔医療	小林 広学	666～667
・腹膜透析用極細内視鏡	松尾 七重	668～669
・腹膜透析患者に対する大腸内視鏡検査	伊藤 雄伍	670～671

序 文

上月 正博 691

第1章 腎臓リハビリテーション総論

1 腎臓リハビリテーションの定義、歴史とエビデンス

上月 正博 702~714

2 腎臓リハビリテーションの要素と基礎知識、チーム医療のエビデンス

白井 俊明・山縣 邦弘 715~722

3 運動機能評価と運動負荷試験

齊藤 正和・小島 将 723~732

4 運動療法の腎保護効果—CKD モデルラットでの最新成果

伊藤 修 733~740

5 CKD・透析患者のサルコペニア・フレイル

海老原 覚・朴 依真
勝又 泰紀・呉 昕沢
小畑 景祐・宮城 翠 741~745

6 CKD・透析患者の栄養障害—悪液質評価の重要性

加藤 明彦 746~755

第2章 CKD・透析患者の合併症と腎臓リハビリテーション

1 脳心血管疾患

石井 秀樹 758~763

2 認知症

鶴屋 和彦 764~773

3 足病変

石岡 邦啓・小林 修三 774~781

4 骨病変

河嶋 英里・高見 礼示
小岩 文彦 782~788

5 掻痒感、むずむず脚、痙攣

倉賀野隆裕 789~795

第3章 腎臓リハビリテーションの要素と実際

1 運動療法

① 保存期 CKD 患者の運動療法

西澤 肇・平木 幸治 798~805

② 血液透析患者の運動療法

松沢 良太 806~815

③ 腹膜透析患者の運動療法

櫻田 勉・山田 将平 816~821

④ 腎移植患者の運動療法

祖父江 理 822~827

⑤ CKD 患者に対する地域での運動療法—医療モデルではなく生活モデルに基づいた運動習慣の普及

安藤 康宏 828~838

2 食事療法

① 保存期 CKD 患者の食事療法

酒井 友紀・菅野 義彦 839~846

② 透析患者の食事療法

吉田 卓矢 847~853

3 薬物療法

① CKD 患者の薬物療法

和田 健彦 854~863

② 腎移植患者の薬物療法

坂本 和雄 864~869

4 教育・日常生活指導

① 保存期 CKD 患者

斎藤 知栄 870~875

② 血液透析患者

宮崎真理子・藤倉 恵美 876~881

③ 腹膜透析患者

森 建文 882~888

④ 小 児

山村なつみ・大藺 恵一 889~895

⑤ 妊娠・出産

甲斐 平康 896~902

5 精神・心理的諸問題

① CKD・透析患者

大石 明・清川 栄美
後藤 淳子・藤井 純子
城本 聖矢・中元 秀友 903~908

② 終末期患者のエンド・オブ・ライフケア

守山 敏樹 909~916

第4章 腎臓リハビリテーションの運営

1 診療報酬

武居 光雄 918~925

2 運営の実際

① 大学病院

柴垣 有吾・平木 幸治
音部 雄平 926~933

② リハビリ専門職のいない透析施設

大山 恵子 934~943

③ 大規模複数透析施設

森山 善文 944~950

第5章 腎臓リハビリテーションのトピックス

1 日本腎臓リハビリテーション学会

山縣 邦弘 952~958

2 遠隔運動療法

草野 英二・井上 真 959~965

3 デジタル療法 (DTx)

三浦 平寛 966~971

4 リンと CKD

黒尾 誠 972~979

5 腸腎関連ネットワークと CKD

鈴木 健弘・阿部 高明 980~989

6 骨格筋電気刺激の有用性

三浦 美佐・上月 正博 990~996

■ 7月号 (vol.40 no.8) チームで挑む透析患者のフットケア

1. 透析患者の足を守る多職種介入チーム医療
小林 修三・日高 寿美 1007～1012
 2. セルフケア
池田 清子 1013～1017
 3. フットケアの実際 (ABI, SPPを含めて)
愛甲 美穂 1018～1024
 4. 足病変重症化予防としての透析時運動療法
河野 健一 1025～1031
 5. 下肢慢性虚血患者に対するリハビリテーションの必要性
今岡 信介 1033～1038
 6. 高齢者糖尿病を踏まえた足を支える栄養管理の基本について
幣 憲一郎 1039～1047
 7. 訪問看護師としてフットケアをどのように行うか?
益満 美香 1048～1054
 8. 救肢のための透析条件, アフェレシス療法
安部 貴之・星野 純一 1055～1060
 9. 包括的高度慢性下肢虚血における膝下動脈病変に対する血管内治療の現状
永富 暁 1061～1069
 10. 重症下肢虚血症例に対する distal bypass 術の現状—包括的高度慢性下肢虚血症例に対する治療方針決定プロセス—
内田 恒・森山 寛也
奥田 紘子・吉田 博希 1070～1077
 11. 形成外科が行う足病治療について
辻 依子・寺師 浩人 1078～1082
 12. 足診療について, 内科医ができること
富田 益臣 1083～1088
 13. 透析医が足病変にできる薬物療法 (疼痛管理を中心に)
石井 義輝 1089～1093
 14. 足病変における皮膚科医の関与
中西 健史 1094～1099
 15. 整形外科医の足病変の関与
生駒 和也・牧 昌弘
高橋 謙治 1103～1107
 16. 重症下肢虚血症例の精神的サポート
東海林 渉 1108～1112
- [コラム]
- ・小さな体で難敵に挑む—マゴットセラピー—
大竹 剛靖・小林 修三 1100～1102

■ 8月号 (vol.40 no.9) 高齢者施設で生活する透析患者の実態

- 企画にあたって
鈴木 正司 1127～1129
1. 自立生活が困難な透析患者の生活の場の選択肢
丸山百合子 1130～1134
 2. 自宅以外で居住する透析患者の実態調査報告
下池 英明・村石 昭彦
百武 宏幸・金井 英俊
満生 浩司 1135～1144
 3. 現在の透析医療費算定の仕組み
穴戸 寛治 1145～1153
 4. 高齢者施設で行う「血液透析」および「腹膜透析」の捉え方
森 建文 1154～1159
 5. 諸施設に居住する患者への透析治療提供の実態
(1) 高齢透析患者の高齢者施設利用経験—看護小規模多機能型居宅介護やサービス付き高齢者住宅, 訪問看護を利用した在宅医療・介護
森 建文 1161～1166
(2) 高齢者施設における腹膜透析—緩和的腹膜透析によって穏やかな施設看取りの提供が可能に
松本秀一朗 1167～1174
(3) 特養に隣接してクリニックを併設し, 入居者への透析治療を提供している実態
青木 正・大畠 れん
吉村真喜子・石原 祐子
新保 一葉・今村 圭子 1175～1181
(4) 高齢者施設に居住する血液透析・腹膜透析患者への訪問診療によるサポートの実態
川村 和子 1182～1189
 6. 介護関連の入居施設側からみた透析患者の受け入れの問題点
村石 昭彦 1190～1199
 7. 高齢者施設患者の受け入れ側透析スタッフの対応
小西 健一 1200～1207
 8. 療養病床入院の透析患者で見られる身体状況と栄養摂取の問題
飛田 美穂 1208～1213
 9. 施設入所の透析患者への運動療法の介入—高齢者のフレイルの問題から, 食事療法に加えて運動療法をいかに進めるべきか?
武居 光雄 1214～1219
 10. 高齢透析患者の well-being をどう

捉えるか？

11. 高齢透析患者に対する「透析の見合
わせ」を考える
- 柴垣 有吾 1220～1227
- 岡田 一義 1228～1232

■ 9月号 (vol.40 no.10) **透析医療を巡る臨床倫理の側面**

1. 総論：今、なぜ、透析医療と臨床倫理なのか？
- (1) 透析医療と臨床倫理
- 三浦 靖彦 1247～1253
- (2) 高齢透析医療の現況（がん合併、認知症を含めて）—世界との比較
- 土谷 健・川口 祐輝 1254～1260
- (3) AMED CKM ガイド 2022 から日本透析医学会の提言 2020 を倫理的に読み解く
- 角谷 裕之・柏原 直樹 1261～1265
2. 倫理的アプローチで患者を全人的に捉える—物語の重要性
- 金城 隆展 1267～1272
3. 臨床倫理コンサルテーションについて
- 長尾 式子 1273～1280
4. 慢性透析患者への緩和ケアの実践
- 濱口 明彦 1281～1287
5. 透析患者のスピリチュアルケアとグリーフケア
- 大武 陽一 1288～1293
6. 透析の不開始・中止の倫理的問題
- 堂園 俊彦・竹下 啓 1294～1299
7. 法的側面から見た CKM（透析非導入・中止）
- 神谷 恵子 1300～1305
8. 透析現場における臨床倫理の実践における留意点—倫理原則のピットフォール、臨床倫理検討法、ACP、CKM を含めた地域連携について
- 三浦 靖彦 1306～1312
9. 各職種からみた倫理的側面
- (1) 医師からみた倫理的問題点
- 安藤 孝 1313～1318
- (2) 腎不全医療における倫理的問題点—看護師として強く意識した事例
- 薄井 園 1319～1325
- (3) 臨床工学技士からみた倫理的問題
- 渡辺 弦輝 1326～1330
- (4) 透析医療における社会福祉士の役割と臨床倫理
- 松本 晶子 1331～1336

■ 10月号 (vol.40 no.11) **透析室スタッフのコミュニケーション術**

1. 医療者は透析患者や同僚とどのようににかかわるべきか
- 野間 紘久・中島 俊 1359～1363
2. 看護師に求められるコミュニケーション能力
- 石 葵 1365～1370
3. コミュニケーションが取りにくい相手とどう向き合うか
- 濱井 章・渡邊 恭子 1371～1377
4. 透析看護とコミュニケーション—「聞き書き」やセルフ・コンパッションの活用
- 剣持 貴史・岡 美智代 1378～1383
5. コミュニケーション力で職場環境を改善する
- (1) 医師と看護師の関係
- 中島 朋美 1385～1389
- (2) 看護師と臨床工学技士との関係
- 宇治紗有香 1390～1395
- (3) 看護師同士の関係
- 中村 理恵 1396～1400
6. コミュニケーション力で患者を支える
- (1) 悩み事を表出できない患者との関係構築
- 吉村 瞳・田野 将尊 1405～1409
- (2) 患者がやる気を出し始めた
- 金子 愛美 1410～1415
- (3) 生きる意欲に繋げる
- 松岡由美子 1416～1420
- (4) 高齢者が笑顔になる
- 今西 伸子 1421～1426
7. 課題解決のための組織運営とコミュニケーション
- 飯田 美沙 1427～1432
- [コラム]
- ・血液透析室における看護管理者と部下の関係
- 産賀 知子 1401～1404
- ・ジェネレーションギャップ
- 江崎アサ子 1433～1435

■ 11月号 (vol.40 no.12) **いざ実践！透析患者の栄養管理**

- CKD ステージによる食事療法基準
- 市川 和子・齋藤かしこ 1468
- 加藤 明彦
1. 高齢血液透析患者における食と栄養の現況と課題
- 神田英一郎 1471～1478
2. 腹膜透析患者における食と栄養の現況と課題
- 湯浅 千晶・小島 茂樹 1479～1486
- 櫻田 勉

3. 透析患者における低栄養のスクリーニング法および評価法	古野郁太郎・宮本 哲	1487～1492
4. 食欲不振を改善させるアプローチ法は？	齋藤かしこ	1493～1496
5. エネルギー摂取量を増やすにはどうするのが良い？	酒井 友哉	1497～1501
6. たんぱく質摂取の量と質はどうする？	佐藤 弘恵・鈴木 芳樹	1503～1509
7. 脂肪摂取はどう考える？	猪野瀬 渚	1510～1515
8. 食塩と水分摂取についてどう指導すれば良いですか？	谷田部香奈子・吉田 洋輔 酒井 友紀・菅野 義彦	1516～1520
9. リン制限とたんぱく質摂取を両立するにはどうする？	大津明日美・松永 智仁	1521～1527
10. カリウム制限はどうすれば良い？	朝倉 洋平・堀 麻友子	1528～1533
11. 新規透析導入期の食事療法はどうするのが良い？	坂本 杏子・角田 政隆	1535～1538
12. 腎移植から再導入された場合の食事療法はどうする？	浅井加奈枝・和田 啓子	1539～1543
13. 透析時静脈栄養（IDPN）はどういったときに検討する？	蒲澤 秀門・細島 康宏	1544～1548
[コラム]		
・経腸栄養剤の工夫	射場裕美子	1549～1553
・リハビリテーション栄養を効果的に実践するための食事面の工夫は？	中山真由美	1554～1556
・経済的に困窮している低栄養血液透析患者に対する栄養補給法は？	北林 紘・長谷部温子	1557～1559
・摂食嚥下機能障害がある患者の栄養指導はどうする？	坂井 敦子	1560～1563
・ミネラルについて一過不足時の症状と対策	射場裕美子	1564～1570

■12月号 (vol.40 no.13) **透析室でかわる アフエレシス**

1. アフエレシスオーバービュー	新田 優紀・久野 瑞貴 阿部 貴弥	1591～1596
2. アフエレシス治療の条件設定	大久保 淳	1597～1602
3. アフエレシスの合併症	上條 祐司	1603～1608
4. 透析室で行うアフエレシス療法の注意点とトラブルシューティング	時任 義臣・岩本ひとみ	1609～1616
5. ネフローゼ症候群—難治性ネフローゼ症候群へのLDLアフエレシス療法対象疾患の保険適応拡大による新たな展開	武曾 恵理	1617～1623
6. 糖尿病性腎症に対するLDLアフエレシス療法：LICENSE研究	越野 瑛久・原 章規 清水 美保・和田 隆志	1624～1628
7. ANCA関連血管炎・抗GBM抗体型急速進行性糸球体腎炎に対する血漿交換療法	藤元 昭一	1629～1635
8. 透析アミロイドーシス	山崎 翔子・山本 卓	1636～1642
9. 透析患者の包括的高度慢性下肢虚血に対するアフエレシス治療	日高 寿美・小林 修三	1643～1649
10. ABO血液型不適合腎移植	内山 友梨・磯部 伸介	1651～1655
11. 急性中毒に対する血液浄化療法	高平 修二・喜屋武玲子	1656～1662
12. カルシフィラキシス	佐藤 元美	1663～1668
13. 血管石灰化に対する基礎研究	黒尾 誠	1669～1674
[コラム]		
・日本アフエレシス学会認定技士の現状と課題	山家 敏彦	1675～1677
・アフエレシスレジストリ	花房 規男	1678～1679
・アフエレシス治療に伴うビタミン喪失	加藤 明彦	1680～1682

●OPINION

1月号 (vol.40 no.1)	3月号 (vol.40 no.3)
「臨牀透析」第40巻を迎えて	「教育・指導型」から「学習支援型」へのパラダイムシフト
加藤 明彦	下山 節子
4～6	237～238
2月号 (vol.40 no.2)	4月号 (vol.40 no.4)
CKDと食事療法—常識か非常識か	ダウンサイジングが進む社会の中で
森 克仁	西 慎一
125～126	349～350

5月号 (vol.40 no.5)				10月号 (vol.40 no.11)	
17年も待てない				透析医療の発展	
	伊丹 儀友	461~462		「不易を知らざれば基立ちがたく、	
6月号 (vol.40 no.6)				流行を知らざれば風新たならず」	
「臨牀透析」創刊 40 年目を意識して				三村 洋美	1357~1358
	佐藤 久光	573~574			
7月号 (vol.40 no.8)				11月号 (vol.40 no.12)	
時代の変化とともに				腹膜透析の患者数は、なぜ、40 年ほ	
	中原 宣子	1005~1006		ど前の開始当時から 3 %程度にとどま	
8月号 (vol.40 no.9)				っているのか	
「臨牀透析」創刊 40 年を迎えて				原田 健司・金井 英俊	1469~1470
	小松 康宏	1125~1126		12月号 (vol.40 no.13)	
9月号 (vol.40 no.10)				透析医療者がアフレス療法を身近	
「臨牀透析」が 40 年目を迎えて思うこと				に感じるために	
	鶴屋 和彦	1245~1246		花房 規男	1589~1590

●症例による透析患者の画像診断

3月号 (vol.40 no.3)				清水 芳男・中井 公美	
維持血液透析患者に発症したまれな腎				田中 翔大・長澤 肇	
腫瘍の 1 例				若林 啓一・小泉 明博	
	坂口 美佳・坂野 恵里			小池 周一・櫛田 知志	
	西本 光寿・植村 天受			和田 了・富野康日己	
	有馬 秀二	329~335		鈴木 祐介	1444~1448
9月号 (vol.40 no.10)				12月号 (vol.40 no.13)	
診断と治療に難渋した calciphylaxis				関節リウマチ加療中に多発リンパ節腫	
の 1 例				脹・ネフローゼ症候群をきたし透析導	
	福田 誠・野中枝理子			入となった 1 例	
	池田 裕貴・山崎 政虎			清水 芳男・中井 公美	
	宮園 素明	1344~1349		吉武 由莉・田中 新	
10月号 (vol.40 no.11)				庄司 有里・若林 啓一	
診断に苦慮した血液透析患者における				富野康日己・鈴木 祐介	1683~1688
肺結核の 1 例					

●ケース・スタディ

2月号 (vol.40 no.2)				6月号 (vol.40 no.6)	
高カルシウム血症を伴う急性腹症を認				界面活性剤中毒に対し活性炭直接血液	
めた維持透析患者の 1 例				灌流を施行した 1 例	
	谷口 賢之・大川 智史			藤田 雅子・吉田 鈴	
	八尋 真名・名波 正義			竹田彩衣子・天野 晴康	
	倉賀野隆裕	219~225		大谷 恵・小林 伸暉	
3月号 (vol.40 no.3)				平澤 卓・安藝 昇太	
くり返し失神発作を呈した腹膜透析患				土井 智喜・田中 啓之	677~680
者の 1 例				9月号 (vol.40 no.10)	
	佐久間亜季・松田 哲			意識障害で入院した高齢末期腎不全患	
	東 高伸・中島 修平			者	
	斎藤 知栄・山縣 邦弘			山下 敦・井沢 理乃	
	坂本 規彰	321~327		有馬 雅博・大島 一憲	
5月号 (vol.40 no.5)				池谷 直樹	1337~1342
高カルシウム血症による意識障害に対				10月号 (vol.40 no.11)	
し血液透析を用いて治療を行った 1 例				大量飲酒後に横紋筋融解症、急性腎障	
	丸山 遙・持田 泰寛			害を繰り返した 1 例	
	大竹 剛靖	553~559		荒川 尚輝・千田 和希	
				大浦 篤・京 哲弥	

中村 祐貴・中屋 来哉	1449～1455	12月号 (vol.40 no.13)	
11月号 (vol.40 no.12)		腹膜透析継続中に尿毒症に至った1例	
血液透析導入後15年で、初めて原疾患が診断された1例		杉田 和哉・細谷 幸司	
岸岡 歩・関根 章成		内山 清貴・伊藤 純	
和田 健彦	1578～1582	鷲田 直輝	1689～1693

●研究・報告

6月号 (vol.40 no.6)		7月号 (vol.40 no.8)	
〔症例報告〕インジゴカルミンの腹腔内注入により横隔膜交通症と診断した右片側胸水の血液透析患者の1例		〔臨床研究〕維持透析患者におけるダルベポエチンのバイオセームへの切替え後の費用対効果	
清水 仁美・後藤 春香		志内 敏郎・村上 真也	
八島 章人・後藤まどか	681～685	川原 和彦	1113～1118

●透析患者の薬、どう使いわける？

1月号 (vol.40 no.1)		11月号 (vol.40 no.12)	
17. 皮膚掻痒症治療薬		20. 慢性心不全治療薬	
佐藤 貴浩	107～112	澤井 慎二・草場 哲郎	1571～1577
5月号 (vol.40 no.5)		12月号 (vol.40 no.13)	
18. 認知症治療薬		21. 移植腎喪失後の免疫抑制薬	
中村 祐	561～566	祖父江 理	1695～1698
10月号 (vol.40 no.11)		12月号 (vol.40 no.13)	
19. 不眠症治療薬		22. COVID-19に対する抗ウイルス薬	
竹内 崇	1437～1443	菊地 勘	1699～1702

●HIF-PH 阻害薬の使用症例集

1月号 (vol.40 no.1)		4月号 (vol.40 no.4)	
第1回		第4回	
HD患者でのESAから各種HIF-PH阻害薬切り替えーロキサデュスタット、エナロデュスタット、ダプロデュスタットへの切り替え経験		HD患者のHIF-PH阻害薬と甲状腺機能	
中村麻衣子・船越 哲	113～117	岡田 悠子	451～454
2月号 (vol.40 no.2)		6月号 (vol.40 no.6)	
第2回		第5回	
腎性貧血治療薬：HIF-PH阻害薬間の切り替えーロキサデュスタットとダプロデュスタット		HD導入期のHIF-PH阻害薬の使用経験	
本田 浩一・青木 崇吾	227～230	伊藤 聖学・平井 啓之	
3月号 (vol.40 no.3)		森下 義幸	673～676
第3回		8月号 (vol.40 no.9)	
血液透析患者の腎性貧血治療でのHIF-PH阻害薬の有効性、安全性と経済性		第6回	
川本 進也・長尾 萌子		オーバーナイト透析におけるHIF-PH阻害薬の導入	
上野明日香・巴 崇		小野 孝彦・塩田 文彦	
安 隆則	337～341	吉永 孝之・中尾 一清	
		永井 博之	1233～1236
		10月号 (vol.40 no.11)	
		第7回	
		PD患者におけるHIF-PH阻害薬の治療効果	
		丸山 之雄	1456～1462

●透析食のレシピ

1月号 (vol.40 no.1)			のツナレモン和え	清野由美子	672	
鮭の味噌マヨオイル焼き／揚げ茄子の煮浸し	野崎 梢	106	8月号 (vol.40 no.9)	きんぴらごはん温玉添え／鮭のバターしょうゆ焼き	黒住 順子	1237
2月号 (vol.40 no.2)			9月号 (vol.40 no.10)	厚揚げの肉みそがけ／にらともやしのナムル	瀬戸 由美	1343
鮭いくらご飯／大豆サラダ	秋島 政美	226	10月号 (vol.40 no.11)	サラダうどん／豚肉と野菜のレンジ蒸し	宮永 直樹	1436
3月号 (vol.40 no.3)			11月号 (vol.40 no.12)	白身魚フライの卵とじ／春雨とピーマンの和え物	川畑 奈緒	1570
キムチ炒飯／豆腐サラダ	秋島 政美	320	12月号 (vol.40 no.13)	油揚げチャーハン／豆腐ステーキ	鳥羽 宏司	1694
4月号 (vol.40 no.4)						
鶏肉の照り煮／厚揚げのトースター焼き	服部 文菜	450				
5月号 (vol.40 no.5)						
ごぼうとたまねぎのかきあげ／オクラとわかめの和え物	金澤 美香	560				
6月号 (vol.40 no.6)						
なすと豚肉のレンジ味噌煮／キャベツ						

本誌の本年1年間の編集委員、編集協力者は以下のとおりです。また、本誌の刊行にあたりご協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。
〔(株)日本メディカルセンター〕

■編集委員

鈴木 正司 伊丹 儀友 小松 康宏 西 慎一 中山 昌明 加藤 明彦
花房 規男 鶴屋 和彦 下山 節子 佐藤 久光 中原 宣子 三村 洋美
市川 和子 齋藤かしこ 山下 芳久 原田 孝司(故人)

■編集顧問

川口 良人 浅野 泰 (敬称略)

■創刊以来ご尽力いただいた歴代編集委員

前田 貞亮(故人) 黒川 清 佐藤喜一郎 中川成之輔(故人)
酒井 糾(故人) 大平 整爾(故人) 秋葉 隆(故人) 平澤 由平*(故人)
春木 繁一*(故人) 落合 福江 吉岡 典 足立 悦子 白井 昭子
安西志保子 川崎 忠行 赤間 立枝 (敬称略, *:特別編集委員)